

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 国立民族学博物館蔵 篠田 統 資料目録 I

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2010-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石毛, 直道 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/3475">http://hdl.handle.net/10502/3475</a>

## 序

故篠田統博士（1899—1978年）は東アジアの食物史の開拓者として知られているが、先生の学問にたいする関心は幅広く、生化学、動・植物学、衛生昆虫学、調理化学、家政学、科学史、民俗学の諸分野でも第一級の業績を残した碩学である。この先生の旧蔵書約7500冊が国立民族学博物館の図書室に「篠田統文庫」として所蔵されている。それらの図書を整理して、『国立民族学博物館蔵 篠田統文庫図書目録』（『国立民族学博物館研究報告別冊』2号所収 1986年）が刊行され、この文庫の利用者の便に供されている。本書はこの図書目録と姉妹編をなすものである。

先生の没後、すべての蔵書を国立民族学博物館が購入することとなった。そのさい、ご遺族のご厚意で、図書以外のほとんどすべての先生の研究資料が博物館に寄贈された。それらの資料は博物館内にある生活科学実験室で保管し、整理事業がおこなわれてきた。

これらの資料とは、先生の書斎とそれにつながる書庫にあった図書以外のいっさいのものである。ぼうだいな量のフィールド・ノートやアンケート類、約3万枚の文献抜き書きカード、文献を複写して製本したもの、古文書や和本の類、先生自身の著作や知己から送られた別刷類、写真アルバム、スクラップ・ブック、整理されずに切り抜いたまま保管されていたスクラップ類、絵葉書、リーフレット類、個人的なメモを記した手帳や日記、個人的な契約に関する証書類、小学校時代の習字や宿題を保存したもの、植物標本、中国時代に叙勲された勲章の実物など、先生の研究資料ばかりではなく個人的な記録をふくめた多岐にわたる資料である。

このうち、スクラップ・ブックに貼りつけてない未整理の切り抜きや、マッチのレットル、絵葉書、リーフレット（観光案内、博物館、美術館の案内などの類がおおい）は、京都のシンクタンクである株式会社CDIが保管することとなった。それ以外のすべての資料が国立民族学博物館のものとなり、とりあえず生活科学実験室で管理をしている。

先生の個人にかかわる記録類はプライバシーにかかわる事柄でもあり、今回の資料整理の対象から除外してある。将来、先生の伝記作者があらわれたときに活用されるべき資料である。

この個人的記録以外のいっさいの資料を整理し、研究者による篠田資料利用のための手引きとして編集したのが本書である。そのなかには生活科学実験室ではなく、図

書館の管轄にある先生の旧蔵書で、未整理のために、『篠田統文庫図書目録』に収録しなかった、先生の収集した雑誌目録もふくまれている。他に冊数がある程度そろっている雑誌は、図書で整理されているので、ここにはあげていない。

将来、篠田資料を利用して研究をおこなう人びとは、この目録で見当をつけて、それから実物にあたることが望まれる。ぼうだいな量にのぼる資料類なので、このような目録なしでは活用することが困難であることも、われわれが本書を作成することを決意した理由のひとつである。

本書には先生が残された資料類を整理して作成した目録類のほかに、先生の年譜、著作目録を収録して、学問の巨人であった先生の研究活動のあらましがわかるようにしてある。それぞれの目録や解題には[解説]を付して、その内容や、資料整理の方針などについてのべているので、個々の資料目録がどのような性質のものであるかについてはそれを参照されたい。

『篠田統文庫図書目録』の序に記したように、また本書収録の年譜や著作目録からもうかがえるように、敗戦によって中国から引きあげるまでは、先生はおもに自然科学者としての研究に従事されていた。戦傷の後遺症で実験に従事することが困難になったので、人文科学の分野に転じられたとうかがっている。中国時代に北京におおくの書籍、資料を置かれていたものが行方不明になったという。そこで、篠田文庫の図書のおもは食物史を中核とする人文科学の研究者としての先生の後半の人生に収集されたものであり、本書に収録した資料類も戦後の記録が主である。

これらの資料の整理は昭和55年から開始されたが、いちおう完了するまでに8年間の歳月を必要とした。その間に何度も海外調査に出かけたりした編者の個人的事情もさることながら、作業に時間がかかる性格の資料でもあった。たとえば、ワラ半紙を二つ折りにしたものに、おおくの場合エンピツでなぐり書きにしたものを合本したものがおいフィールド・ノートを対象として、それを読みとって解題をするためには、ときには古文書の解読にも似た作業を要求される。一冊の内容を解題するのに、一日かかることもめずらしくない。

このような労のおおい作業を編者の片腕となって助けてくれたのが、先生の晩年に知遇をうけた大阪薫英女子短期大学講師の植田啓司氏である。植田氏には整理から編集、刊行にいたるまでのすべての作業を手伝っていただいた。編集作業には上出みちるさんと山本由佳さんの協力を得た。古文書類の整理などについては、大島新一氏が全面的にあたってくれたし、編集作業にも労力をさいていただいた。ワープロで原稿を整理する作業を担当していただいたのは近藤一美、亀田洋子、別所洋子、柴田芳枝、

## 篠田統資料目録 I

橋治美，豊田厚子のみなさんである。これらの作業をすすめるに必要な経費の一部は M C C 食品会社会長の水垣宏三郎氏のご援助によってまかなわれている。これらの方がたにここからお礼申しあげるしだいである。

さきに刊行した『篠田統文庫図書目録』とおなじく，本書は昭和55—59年度のあいだ，編者を研究代表者としておこなわれた国立民族学博物館の共同研究である「東アジアの食事文化の比較研究」班の事業の一環として作成された。班員諸氏のご協力にたいしても謝意を表するものである。

1988年9月

石毛直道

### [追記]

当初はすべての資料目録を1冊にまとめて出版する予定であった。原稿の量がぼうだいなものに達したことなど，さまざまな理由により，急遽2分冊にわけて出版せざるをえなくなった。本書のタイトルを『国立民族学博物館蔵 篠田統資料目録 I』としたゆえんである。IIは1989年に出版されるみこみである。2冊に分割するにあたって，Iには篠田先生ご自身の作成による資料類を収録し，IIには先生の収集した資料類をのせることにした。すなわち，IIには先生の集められた古文書，和本，雑誌の目録，研究資料用に複写された文献の目録，先生に送られてきた抜刷の目録が収録される予定である。